

市民が池田市の魅力をレポートする
“市民記者”として、地元・池田の
情報を発信します。

今月の市民記者
米津 榮次郎さん



広報誌で池田を伝えて今年で16年目。「何か社会に恩返しできたら」と話す、御歳88歳。地球温暖化についての科学的知見を集約し、国際的に広める「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」の報告書伝達にも参加。

取材先

石橋商業活性化協議会理事長 堤洋一さん

「石橋×阪大」∞（無限大）

石橋商店街老舗ベーカーリー・タローパンの三代目店主であり、石橋商業活性化協議会理事長。そして、「石橋×阪大」は石橋商店街と阪大生を繋ぐサークルです。堤洋一さんは、同サークル設立のきっかけを掴み、年齢差を顧みず友達感覚で汗を流しました。今回は堤洋一さんをご紹介します。

「石橋×阪大」の芽生えは、石橋阪大前駅の名がヒントです。平成17年、松村ゼミの学生が、授業の一環で堤さんを訪ねました。駅周辺に公共施設や史跡がやや少ない石橋で、阪大生を逃す手はないと考えた堤洋一さんは間髪を入れず提案します。それが、阪大坂



を早く駆け上がり福をもたらすレース「あひす男選び」の開設です。阪大生も素早く反応し、堤さんの提案を実現しました。今では新年恒例となり「あひす女」と「子どもあひす」が加わり進化を遂げています。

「石橋×阪大」の活動は、石橋の街を大学構内と見立てた石橋キャンパスを作ろう、という理念のもと、年を追ってさまざまな分野へ拡がり、商店街に豊かさを届けます。

◆おはこ文化祭 in 石橋商店街
中核となる活動で、阪大を祭を商店街で実施するイメージ。ジャンルはジャズ演奏・落語・ベリーダンス・絵本音読・屋台出店・書道表現・講

習会等と多彩です。

◆無料塾 in くるる石橋

空き店舗を活用した「石橋×阪大」の活動拠点です。阪大生が子ども向けに無料で精一杯お勉強の手伝いをします。

◆夜警

前々から商店会が夜間に火災や犯罪の警戒をしていますが、平成28年以降は阪大生が加わり、商店年配者の負担を軽くしてくれます。

一方で、多忙であっても堤さんは本業を疎かにできません。夜明け前に起きてパンを焼きます。工場店舗のコロナ対策にも余念がないと言います。店舗・喫茶のお客様が多く、91周年の感謝記念セールは盛況でした。

堤さんに「石橋×阪大」新常態の舵取りを尋ねました。

「8月9日に、石橋駅前公園で子ども達に喜んで貰おうと、石橋商店会有志と市内小学校PTAとの三団体協賛で「石橋ねばぎばっ祭り」を開催し、好評でした。子どもは1クルー300人までとして時間

差を設け、スタッフ含め約1000人が参加しました。阪大生は卒業生も駆けつけてくれました。コロナ対策として参加は登録制、屋台ソーシャルディスタンスの確保、食べ物配禁止など、万全の努力をしました。今後も順序を追って持続可能なイベントを精選し、かけがえない「石橋×阪大」の明るい未来を描きたいと願っています。長期にわたりNever give up（決して諦めない）の強い思いを込めているのです」。

イベントを開くのに商店は商売に忙しい。かたや学生は場所や資金もない。両者のコラボが力強い協力体制を生んだとされます。

